



いわき民報

小名浜漁業無線局
建設工事

いわき市平字田町63ノ7

いわき市平草野青年会、草野公民館
地区第一回草野地区成人式祝賀会

モード

モード</



法田院山門と標柱、この奥にお堂がある

著新潮社刊 大日本三編
続頭のいいセミナー編 青春出版社
「ライフセミナー編」青春出
版社 三九〇円④ 「國盜り物語前編」司馬遼太郎著 新
潮社刊 大〇〇円⑤ 「頭のいい
孫の実用集」ホーライフ
セミナー編 青春出版社刊
三九〇円⑥ 「新チビッコ叢書
録」石渡和慶著 一見書房刊
三五〇円⑦ 「日本歴について
」イサヤ・ベンダサン著
文芸春秋社刊 七八〇円⑧ 「
坂の上の雲」司馬遼太郎著
文芸春秋社刊 五五〇円⑨ 「
たちはな」につまれて
（文芸春秋社刊・各五五〇円）

間とマンボウ
中央公論社刊

書店を辞して、法田寺へ参った。當時は鷹は方體の木馬が飾つてあった。木馬を引いたのは、そりした闇祭であつた。鷹(い)の油不動尊があつて、かひほじひきからだが、それは

「周間くべや」

○「恍惚の人」海音寺和子 著
新潮社刊 六九〇円② 「中央公論社刊 四三〇円③」「坂の上の雲」司馬遼太郎著
絶版の物語後編「司馬遼太郎」

この絶縁の物語は、道三が中世の崩廃期に義理の娘のわれ、美濃の中庄体制のなかで近世を予想される能化（あだばな）を映かせ、その種子が續の信長と、稻葉城の道三の方に潤むる道三の妻小見の方のオヤである光秀にひき

本尊仏像は千手觀音
一丈六尺(五メートル)もある巨像

法田とやみのりたねを春として
あゆみの種秋をまつらん
旧山田村井上山あり。山川山田院は活動つけて、ドカソ、ド
院は曹洞宗に属し、承元年中干光、慶宗をして走つてゐる。
國師が建立した。と、石城郡説に
あった。承元といふ西醫の一二、勸勉途に現在の豈かな井
〇七年にあたる。曹洞宗の宗祖道作り上げた。日本麁民のモ
元大師が、越前水平寺を開基した。区じたたえい。
のが一四五年（寛元三年）である。その道路がまことに直ぐく、か
る。四十年ほど遅く、おもむく都、境内人口右側にこの地方で
築いたのがいたれり。
現在は高藏寺住職木村範道師（高さ三十五呎位）、木村師部
真言宗）が兼務している。玉田院でコンクリートで修復し、『
を再建したのは明治四十三年、ま
六十年足らずである。
このせた。氣恵

聖門三十紀

札所七番

荒川 積三作
題字は

あんのう 安濃内科医院

近代企業最大の武器
あらゆる営業にだれでも使える
郵政省電波監理局型式検定
自動車無線装置
車から連絡・集配ロス・交通渋滞・経費節減に威力
無線電話専門(有) 総合通信メンテナフ
平・菱川町電々公社正門前
電話 21-0000 郵便番号 21-0000

—高級服地とお仕立て—
ブチック
 すぐす

あなたの職場のユニホーム
会社・病院・商店・学校・諸官公署・事業所
作業服・事務服・白衣

郷土の誇り……清酒 雪の

直屬工場・有限会社 いわき終制・内野(26) 高坂5丁目

白馬の重酒造株式会社 いわき市平

紅葉石

●宗連免許・福島(2)187・建設業登録・福(わ)1678

至南開券 株式会社

市民交通 災害共済 加入目標40%に

母の会、家族ぐるみ運動

いわき市は四十八年度の県民交通災害共済加入率を十六日に開催され、これは昨年十月に発足した六十九の交通安全母の会(二万五千人)と推進母体として家族ぐるみの加入を促進、市民の四〇%(十二万人)加入目標に月十日から受け付けた。

「一日一円」の掛け金(昭和四十二年に始まった市民交通災害共済)が、当初は〇円を満たない加入率でスタート。これが交通渋滞で頻繁な交通事故に、市民交通災害の激化で、相扶助の災害共済加入率は五人の計九万九千三百人で、ついに三十・七%の加入率を計った。

交通事故を防ぐには家庭からいふことで、市は昨年八月の市民

交通安全大会(六十九小学校の学区ごとに交通安全金の金額を改定し、運営組織として実現させた)。交通安全共済も、從来の行政機関による施設コースや職場コースといった加入運動を改め、交通安全母の会の会員登録して家庭ぐるみの加入を求める、小学生のない家庭では幼稚園(保健所)・中学校の児童、生徒たちを通じて、安全規則の加入促進運動を行なう。その他は從前強調の隣組、職場を通じて加入を呼びかけることとした。

16日夕に一重事故

常磐線 上り 下り 二時間余も15本遅れ

いわき市広野町の常磐線木戸・広野大橋付近で、広野火力発電所に通じる陸橋で、工事をしていた建設業者和利組の、いわき市平字小太郎町の下請け会社の草野商会一同市小名木花畠町のフルード・ソーカーが、誤って鉄道電話のケーブルを切断した。これは同年後四時五十分開通し

たが、約三十分後、こんどは未続

く夕暮れ時の架線のトランクが故

障になつた。

十六日午後二時四十分ごろ、双

葉郡広野町の常磐線木戸・広野

大橋付近で電流・漏電が上

り急行「ときわ号」など二十

五本が軒並み一時間から二時間半

も遅れた。なお同線は午後十時ご

ろ平常時と戻った。

いわき市は四八年度の県民交通災害共済加入率を十六日に開催され、これは昨年

十月に発足した六十九の交通安全母の会(二万五千人)と推進母体として家族ぐるみの加入を促進、市民の四〇%(十二万人)加入目標に月十日から受け付けた。

「一日一円」の掛け金(昭和四十二年に始まった市民交通災害共済)が、当初は〇円を満たない加入率でスタート。これが交通

渋滞で頻繁な交通事故に、市民交通災害の激化で、相扶助の災害共済加入率は五人の計九万九千三百人で、ついに三十・七%の加入率を計った。

交通事故を防ぐには家庭からいふことで、市は昨年八月の市民

交通安全大会(六十九小学校の学区ごとに交通安全金の金額を改定し、運営組織として実現させた)。交通安全共済も、從来の行政

機関による施設コースや職場コース

といった加入運動を改め、交通

安全母の会の会員登録して家庭ぐ

るみの加入を求める、小学生のない

家庭では幼稚園(保健所)・中学校

の児童、生徒たちを通じて、安全規則の加入促進運動を行なう。その他は從前強調の隣組、職

場を通じて加入を呼びかけること

とした。

いわき市は四八年度の県民交通災害共済加入率を十六日に開催され、これは昨年

十月に発足した六十九の交通安全母の会(二万五千人)と推進母体として家族ぐるみの加入を促進、市民の四〇%(十二万人)加入目標に月十日から受け付けた。

「一日一円」の掛け金(昭和四十二年に始まった市民交通災害共済)が、当初は〇円を満たない加入率でスタート。これが交通

渋滞で頻繁な交通事故に、市民交通災害の激化で、相扶助の災害共済加入率は五人の計九万九千三百人で、ついに三十・七%の加入率を計った。

交通事故を防ぐには家庭からいふことで、市は昨年八月の市民

交通安全大会(六十九小学校の学区ごとに交通安全金の金額を改定し、運営組織として実現させた)。交通安全共済も、從来の行政

機関による施設コースや職場コース

といった加入運動を改め、交通

安全母の会の会員登録して家庭ぐ

るみの加入を求める、小学生のない

家庭では幼稚園(保健所)・中学校

の児童、生徒たちを通じて、安全規則の加入促進運動を行なう。その他は從前強調の隣組、職

場を通じて加入を呼びかけること

とした。

いわき市は四八年度の県民交通災害共済加入率を十六日に開催され、これは昨年

十月に発足した六十九の交通安全母の会(二万五千人)と推進母体として家族ぐるみの加入を促進、市民の四〇%(十二万人)加入目標に月十日から受け付けた。

「一日一円」の掛け金(昭和四十二年に始まった市民交通災害共済)が、当初は〇円を満たない加入率でスタート。これが交通

渋滞で頻繁な交通事故に、市民交通災害の激化で、相扶助の災害共済加入率は五人の計九万九千三百人で、ついに三十・七%の加入率を計った。

交通事故を防ぐには家庭からいふことで、市は昨年八月の市民

交通安全大会(六十九小学校の学区ごとに交通安全金の金額を改定し、運営組織として実現させた)。交通安全共済も、從来の行政

機関による施設コースや職場コース

といった加入運動を改め、交通

安全母の会の会員登録して家庭ぐ

るみの加入を求める、小学生のない

家庭では幼稚園(保健所)・中学校

の児童、生徒たちを通じて、安全規則の加入促進運動を行なう。その他は從前強調の隣組、職

場を通じて加入を呼びかけること

とした。

いわき市は四八年度の県民交通災害共済加入率を十六日に開催され、これは昨年

十月に発足した六十九の交通安全母の会(二万五千人)と推進母体として家族ぐるみの加入を促進、市民の四〇%(十二万人)加入目標に月十日から受け付けた。

「一日一円」の掛け金(昭和四十二年に始まった市民交通災害共済)が、当初は〇円を満たない加入率でスタート。これが交通

渋滞で頻繁な交通事故に、市民交通災害の激化で、相扶助の災害共済加入率は五人の計九万九千三百人で、ついに三十・七%の加入率を計った。

交通事故を防ぐには家庭からいふことで、市は昨年八月の市民

交通安全大会(六十九小学校の学区ごとに交通安全金の金額を改定し、運営組織として実現させた)。交通安全共済も、從来の行政

機関による施設コースや職場コース

といった加入運動を改め、交通

安全母の会の会員登録して家庭ぐ

るみの加入を求める、小学生のない

家庭では幼稚園(保健所)・中学校

の児童、生徒たちを通じて、安全規則の加入促進運動を行なう。その他は從前強調の隣組、職

場を通じて加入を呼びかけること

とした。

いわき市は四八年度の県民交通災害共済加入率を十六日に開催され、これは昨年

十月に発足した六十九の交通安全母の会(二万五千人)と推進母体として家族ぐるみの加入を促進、市民の四〇%(十二万人)加入目標に月十日から受け付けた。

「一日一円」の掛け金(昭和四十二年に始まった市民交通災害共済)が、当初は〇円を満たない加入率でスタート。これが交通

渋滞で頻繁な交通事故に、市民交通災害の激化で、相扶助の災害共済加入率は五人の計九万九千三百人で、ついに三十・七%の加入率を計った。

交通事故を防ぐには家庭からいふことで、市は昨年八月の市民

交通安全大会(六十九小学校の学区ごとに交通安全金の金額を改定し、運営組織として実現させた)。交通安全共済も、從来の行政

機関による施設コースや職場コース

といった加入運動を改め、交通

安全母の会の会員登録して家庭ぐ

るみの加入を求める、小学生のない

家庭では幼稚園(保健所)・中学校

の児童、生徒たちを通じて、安全規則の加入促進運動を行なう。その他は從前強調の隣組、職

場を通じて加入を呼びかけること

とした。

いわき市は四八年度の県民交通災害共済加入率を十六日に開催され、これは昨年

十月に発足した六十九の交通安全母の会(二万五千人)と推進母体として家族ぐるみの加入を促進、市民の四〇%(十二万人)加入目標に月十日から受け付けた。

「一日一円」の掛け金(昭和四十二年に始まった市民交通災害共済)が、当初は〇円を満たない加入率でスタート。これが交通

渋滞で頻繁な交通事故に、市民交通災害の激化で、相扶助の災害共済加入率は五人の計九万九千三百人で、ついに三十・七%の加入率を計った。

交通事故を防ぐには家庭からいふことで、市は昨年八月の市民

交通安全大会(六十九小学校の学区ごとに交通安全金の金額を改定し、運営組織として実現させた)。交通安全共済も、從来の行政

機関による施設コースや職場コース

といった加入運動を改め、交通

安全母の会の会員登録して家庭ぐ

るみの加入を求める、小学生のない

家庭では幼稚園(保健所)・中学校

の児童、生徒たちを通じて、安全規則の加入促進運動を行なう。その他は從前強調の隣組、職

場を通じて加入を呼びかけること

とした。

いわき市は四八年度の県民交通災害共済加入率を十六日に開催され、これは昨年

十月に発足した六十九の交通安全母の会(二万五千人)と推進母体として家族ぐるみの加入を促進、市民の四〇%(十二万人)加入目標に月十日から受け付けた。

「一日一円」の掛け金(昭和四十二年に始まった市民交通災害共済)が、当初は〇円を満たない加入率でスタート。これが交通

渋滞で頻繁な交通事故に、市民交通災害の激化で、相扶助の災害共済加入率は五人の計九万九千三百人で、ついに三十・七%の加入率を計った。

交通事故を防ぐには家庭からいふことで、市は昨年八月の市民

交通安全大会(六十九小学校の学区ごとに交通安全金の金額を改定し、運営組織として実現させた)。交通安全共済も、從来の行政

機関による施設コースや職場コース

といった加入運動を改め、交通

安全母の会の会員登録して家庭ぐ

るみの加入を求める、小学生のない

家庭では幼稚園(保健所)・中学校

の児童、生徒たちを通じて、安全規則の加入促進運動を行なう。その他は從前強調の隣組、職

場を通じて加入を呼びかけること

とした。

いわき市は四八年度の県民交通災害共済加入率を十六日に開催され、これは昨年

十月に発足した六十九の交通安全母の会(二万五千人)と推進母体として家族ぐるみの加入を促進、市民の四〇%(十二万人)加入目標に月十日から受け付けた。

「一日一円」の掛け金(昭和四十二年に始まった市民交通災害共済)が、当初は〇円を満たない加入率でスタート。これが交通

渋滞で頻繁な交通事故に、市民交通災害の激化で、相扶助の災害共済加入率は五人の計九万九千三百人で、ついに三十・七%の加入率を計った。

交通事故を防ぐには家庭からいふことで、市は昨年八月の市民

交通安全大会(六十九小学校の学区ごとに交通安全金の金額を改定し、運営組織として実現させた)。交通安全共済も、從来の行政

機関による施設コースや職場コース

といった加入運動を改め、交通

安全母の会の会員登録して家庭ぐ

るみの加入を求める、小学生のない

